



ХӨДӨЛМӨР,
НИЙГМИЙН ХАМГААЛЛЫН ЯАМ



JAPAN INTERNATIONAL
COOPERATION AGENCY

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト

(DPUB)

ニュースレター第17号

DPUB連絡先

Office: Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook:

<https://www.facebook.com/jicadpub>

Website:

<https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com

JICADPUBのFACEBOOKページに

「いいね」をお願いします。

お陰様で、今ではページの「いいね」が2580件に達し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。



NHKワールド、撮影ウラ話



撮影の様子

皆さんはもう7月11日放送の「SIDE BY SIDE」をご覧になりましたか？私たちのプロジェクトの特集番組です。撮影は4月17日から9日間。その頃はちょうど障害平等研修（DET）ファシリテーター養成講座の真っ最中でした。番組放送終了後の照屋専門家のコメントです。2週間の講座をすべて一人で担当したため、撮影中は全く余裕がなく、お陰でディレクターやカメラマンがそばにいても全然気になりませんでした。あれは本当に素の状態です。・・・もっと言葉を選んだり、服装やメイクも気を遣えば良かったなと少し後悔。ボウズ作りは講座の合間の土曜日。日々の疲れがたまっていたせいか、首にできた大きなでき物を病院で切開した直後でした。手のひらサイズのばんそうこうを首の右側に貼っていましたが、さすがプロのカメラマン。何もなかったように映していましたね。ただ、ボウズの湯気を撮りたいと、何度もふたを開けたり閉めたりすることになり、こういうところがこだわりなのかと思いました。今回は、プロジェクトの紹介、特にモンゴルのDETファシリテーターの活躍を採り上げて下さり、とてもうれしいです。唯一、2年越しで番組の準備をしてきた千葉チーフがほとんど映らなかったことが心残りです・・・ 番組は以下のサイトから7月25日（水）までご覧いただけます。まだの方はお早めに！

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/tv/sidebyside/20180711/2037044/>

ナライフ区でDET+サポート方法の研修（2018.07.16）



「障害とは」について話し合う参加者

ナライフ区は、「すべての人に優しい街づくり」を目指しています。重度の障害を持つ人には、家を訪問して本人に直接手当を渡したり、障害のある子どもの家を先生が訪ねたりと、訪問サービスの強化に取り組んでいます。バットルガ副区長がある日プロジェクト事務所を訪問し、「障害のある人達がもっと外に出て社会参加ができるような環境をつくりたい」と相談。そこで、プロジェクトから講師を派遣して研修を行うことになりました。6月19日

と22日の2日に分けて朝から夕方まで研修を実施。福祉サービス課、警察、教育担当や銀行員と障害のある人達と日頃接する機会の多い様々な分野の職員60名が参加しました。「まずは参加者の障害に対する意識改革が先」と午前は障害平等研修（DET）を、午後は介助方法の演習を行いました。すべての研修に共通することは「当事者に聞く！」。「突然腕をつかんだり、車椅子を無断で押したりしていませんか？」悪い例の紹介に苦笑する参加者も。障害理解+すぐに役立つ介助方法の組み合わせは、たった1日で参加者の意識と態度に変化が現れる研修です。

障害研究会の実施 (2018.07.16)

障害者の社会参加を進めるには、障害問題に対する正しい理解が必要です。そのため、先進諸国では障害学という学問も進み、また一般社会に対する啓発も進めています。モンゴルではまだ学問として確立されていませんが、障害に対する研究会は実施されています。そこで今回は、DPUBの活動としてモンゴル日本センターで障害研究会を実施しました。当日は60名以上の方が参加し、労働社会保障省、教育省、労働福祉サービス庁、建設開発センターなどから各機関の取組や調査報告、そして障害者組織国家協会、ユニバーサル・プログレス自立生活センターなどからも障害者の自立や社会参加に関する調査報告がありました。DPUBからは、先進諸国や東南アジアの障害学の歴史や活動について紹介しました。各団体の発表を聞き、モンゴルでも様々な活動や調査が実施されていることが分かりました。そして今後は、これらの研究を成果に繋げられるような努力が必要と感じました。

研究会の様子

第4回JCCの実施 (2018.07.10)



JCCメンバーの皆さん

DPUBが開始され早2年が経過し、第4回JCC（合同調整委員会）が実施されました。今回はちょうどプロジェクトの中間に当たるので、あと2年活動を充実させ、成果を出すための重要なJCCとなりました。まず2018年前期の活動報告を行い、次いで後期の活動計画の承認へと進みました。後期は、障害者権利法の改定や情報アクセシビリティセミナーなど、また重要な活動が進みます。少しでも障害者の社会参加を進める活動にしたいと考えておりますので、今後もDPUBの応援をよろしくお願いいたします。

我々のプロジェクトの照屋専門家がMNBで紹介されました。

- ・放送日時：7/8（日）19：00-19：25
- ・番組名：「MiniiTemdeglel」（私の記録）
- ・内容：プロジェクト活動、照屋専門家の活動、DETファシリテーターの活動などを通し、障害理解と障害者の社会参加の促進を目指す照屋専門家の活躍。



番組のシーンから～

国連アジア太平洋経済社会委員会（通称：ESCAP）

国連インターンを探している時、ESCAP（エスキャップ）って全然知りませんでした。UnicefやUNESCO、UNDPなどは聞いたことがあり、最初はそっちに申し込もうと思っていたのですが、社会開発というキーワードで検索すると、ESCAPが出てきました。その社会開発部でインターンに採用され、その結果、准エキスパートとして戻ってこれた時は、本当に嬉しかったです。国連を目指し退職したのが1996年9月、ESCAPに採用されたのが2001年1月でした。初出勤すると、懐かしいナショナル・スタッフが出迎えてくれて、戻ってきたことを実感しました。国連では個室が提供されるので、職場環境も充実。ここで高嶺豊氏のアシスタントとして働くことになりました。職務はウェブサイトを通した障害情報の収集と発信、またウェブサイトのアクセシビリティを確保することでした。正直、まだ障害分野の知識に乏しく、障害の社会モデルとか、障害者運動、障害施策などまったく分からず、ただ障害者が参加できる社会環境を整備するという職務の意義は理解していたつもりです。（つづく・・・）



チーフアドバイザー千葉寿夫